

(新) 函館市病院事業改革プランの 点検・評価

**令和3年8月
函館市病院局**

目次

1	（新）函館市病院事業改革プランの点検・評価について	1
2	函館病院の取組みと自己評価について	2
3	恵山病院の取組みと自己評価について	13
4	南茅部病院の取組みと自己評価について	17
5	経営に関する全体的な自己評価（3病院）	20
6	函館市病院事業経営改革評価委員会による総合的な評価	21

1 (新) 函館市病院事業改革プランの点検・評価について

- 改革プランの計画期間 平成28年度～令和2年度（5年間）

- プラン実施状況の点検・評価の実施方法

これまで函館市病院事業経営改革評価委員会において、四半期ごとの収支の実績を中心に議論。

- 計画期間の終了にあたり、プランで取り組むべきこととした事項について、以下の3段階で改めて評価を実施。

評価の区分

A 目標を十分達成した。

B 目標をおおむね達成した、または達成に向け継続して取り組んでいる。

C 達成できなかった、または取り組みがなされていない。

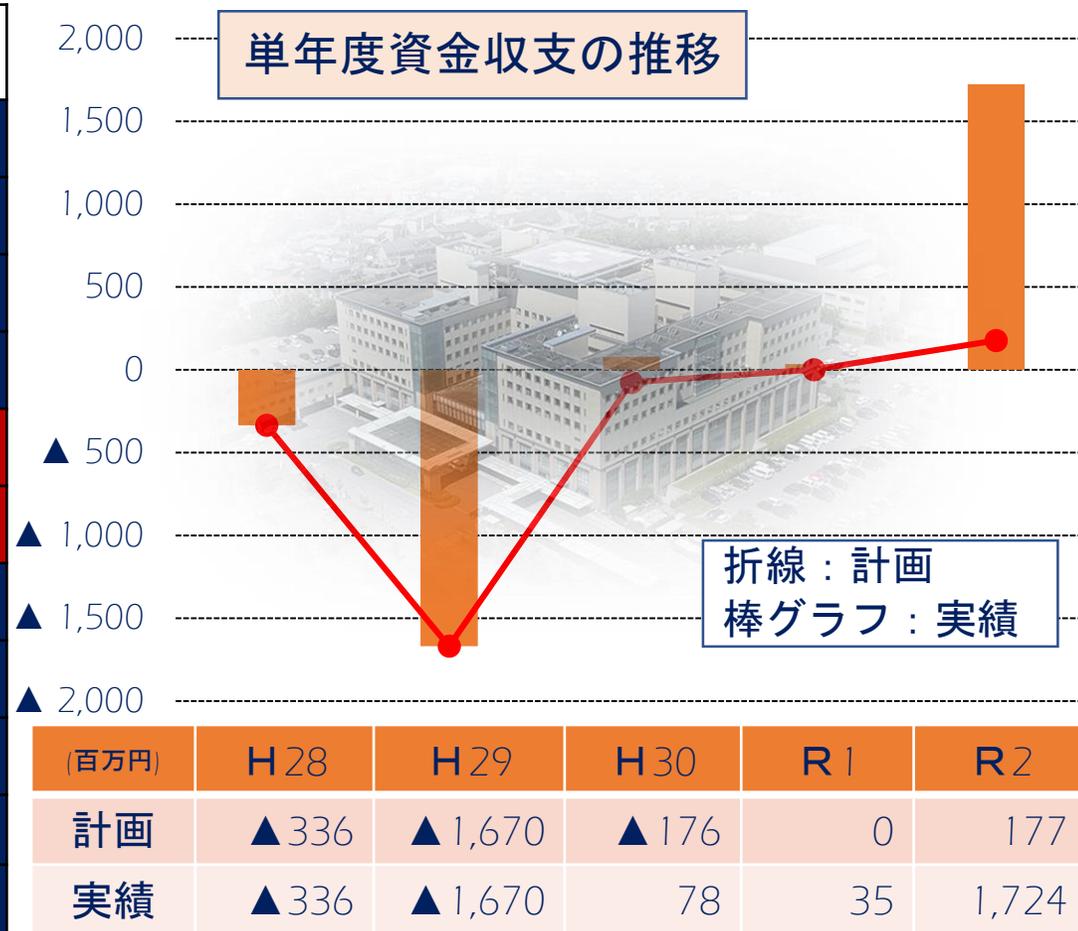
2 函館病院の取組みと自己評価について

函館病院は「道南の中核医療機関として、高度急性期・急性期医療を担う」ことを役割として掲げ、入院件数の確保、平均在院日数の適正化、紹介率・逆紹介率やクリニカルパス適用率の向上などの取組みを進めてきたが、その内容と評価は下記のとおりである。経営状況については、H30より3か年連続で単年度黒字を達成しており、全体的な評価はAとした。

自己評価
(全体)

A

区分	自己評価	区分	自己評価
院内がん登録数	B	紹介患者数の確保	A
救急車受入件数(ℎり含)	A	クリニカルパス適用率	A
手術件数	A	D P C I ~ II 入院期間	A
分娩件数	B	紹介率・逆紹介率	A
他病院への医師派遣	A	D P C II 群病院の指定	C
地域の人材育成	A	精神病棟再開	C
経常収支比率	A	一般事務職員の独自採用	A
医業収支比率	A	E S C O 事業	A
年間入院件数	A	治験・臨床試験への参加	A
1件あたり入院収益	A	材料比率の見直し	A
		再編・ネットワーク化推進	A

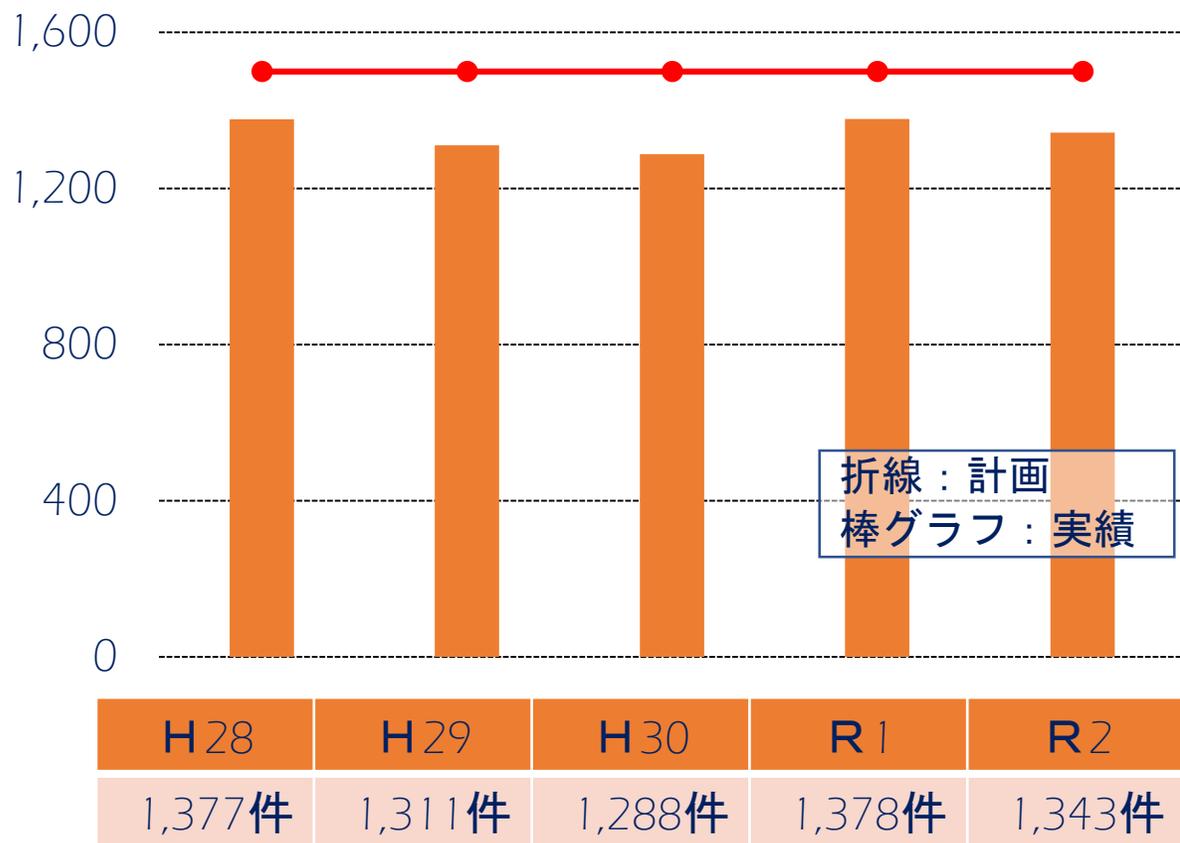


院内がん登録数

地域がん診療連携拠点病院として、がんの罹患，診療，転帰等に関する情報を記録する。**目標値 年1,500件以上** → 計画期間中は，**目標値の86～92%の登録を達成。**

自己評価

B

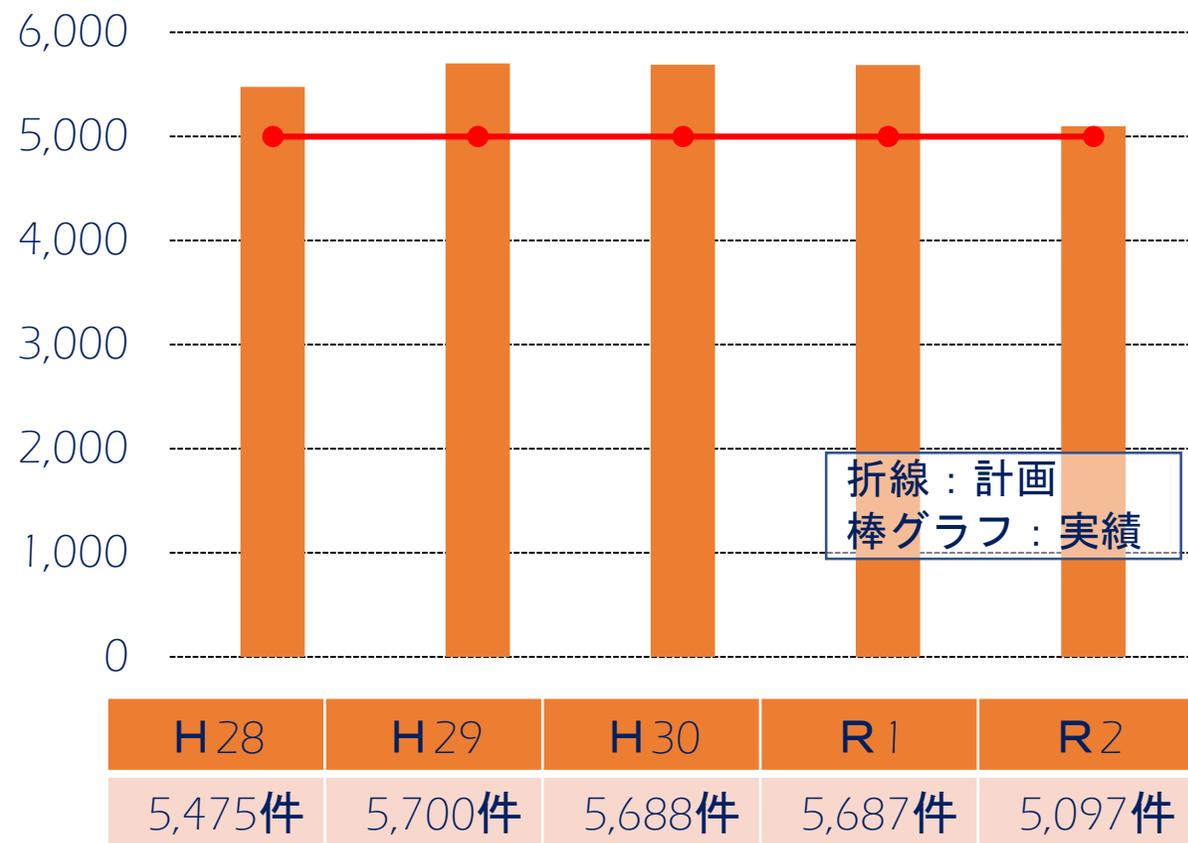


救急車受入件数（へり含む）

南渡島，南松山，北渡島檜山を対象範囲とした3次救急医療機関(救命救急センター)としての役割を果たす。**目標値 年5,000件以上** → 毎年度5,000件を超える受入れ。

自己評価

A

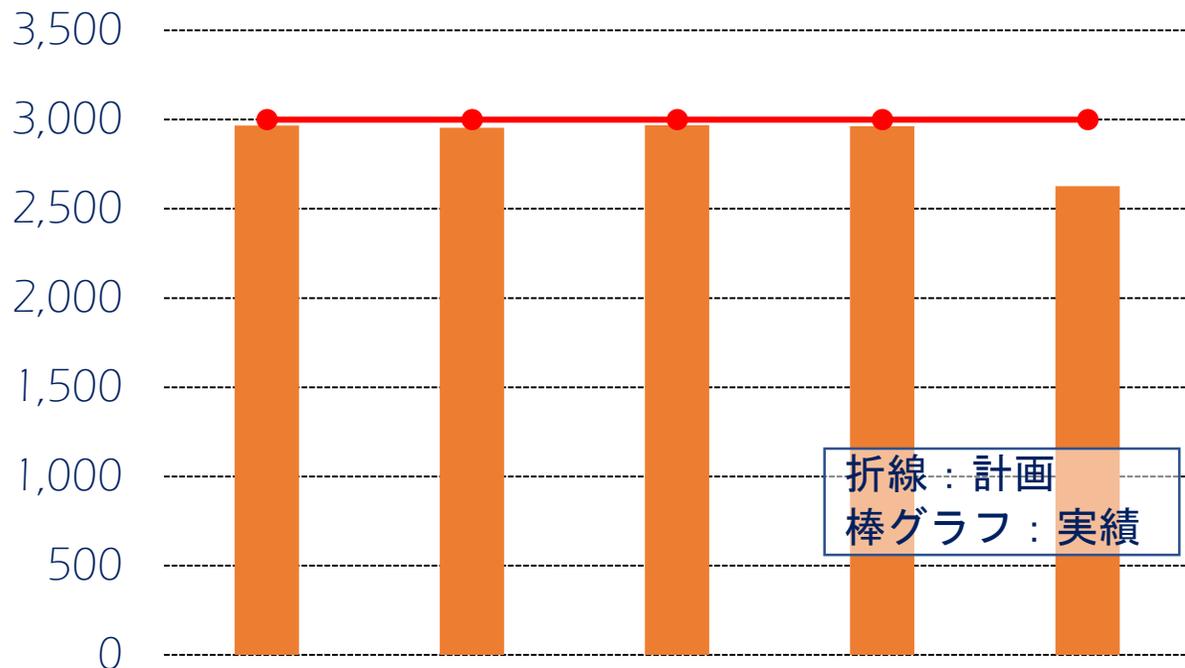


手術件数

3次医療圏の中核医療機関として高度急性期・急性期医療を提供する。目標値年3,000件以上 → 計画期間中は、目標値の88～99%の手術を実施。

自己評価

A



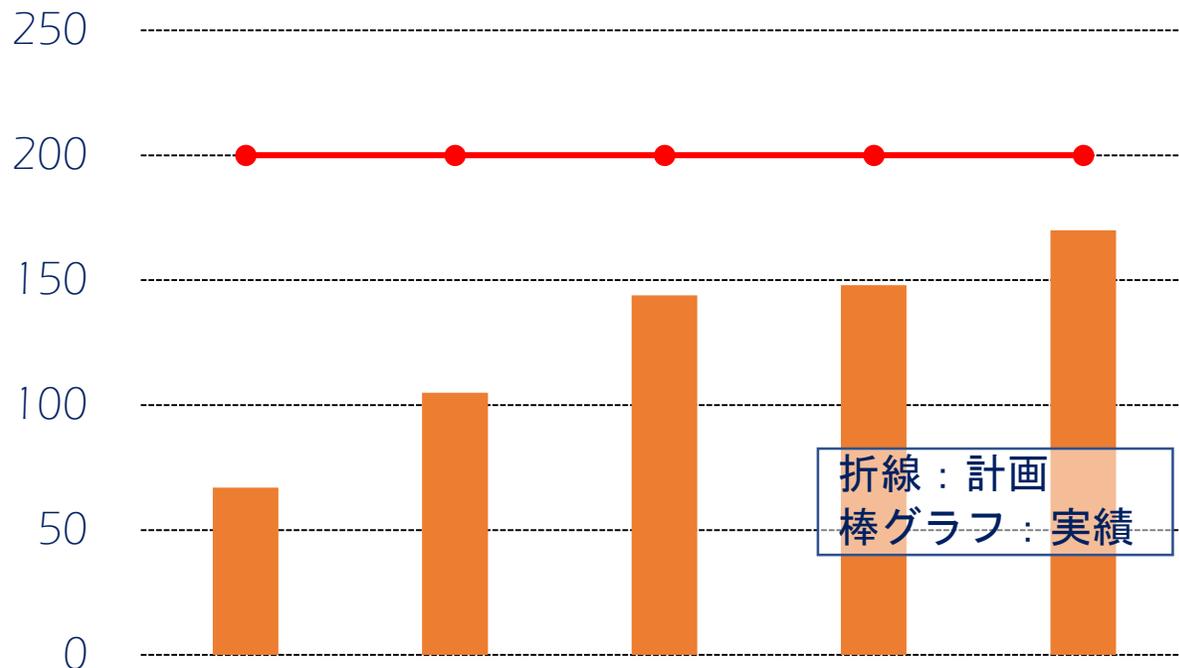
H28	H29	H30	R1	R2
2,966件	2,954件	2,968件	2,963件	2,627件

分娩件数

高度な周産期医療を行う地域周産期センターとしての役割を果たす。目標値年200件以上 → 毎年度分娩件数は増加し、最終年次は目標値の85%の分娩を実施。

自己評価

B



H28	H29	H30	R1	R2
67件	105件	144件	148件	170件

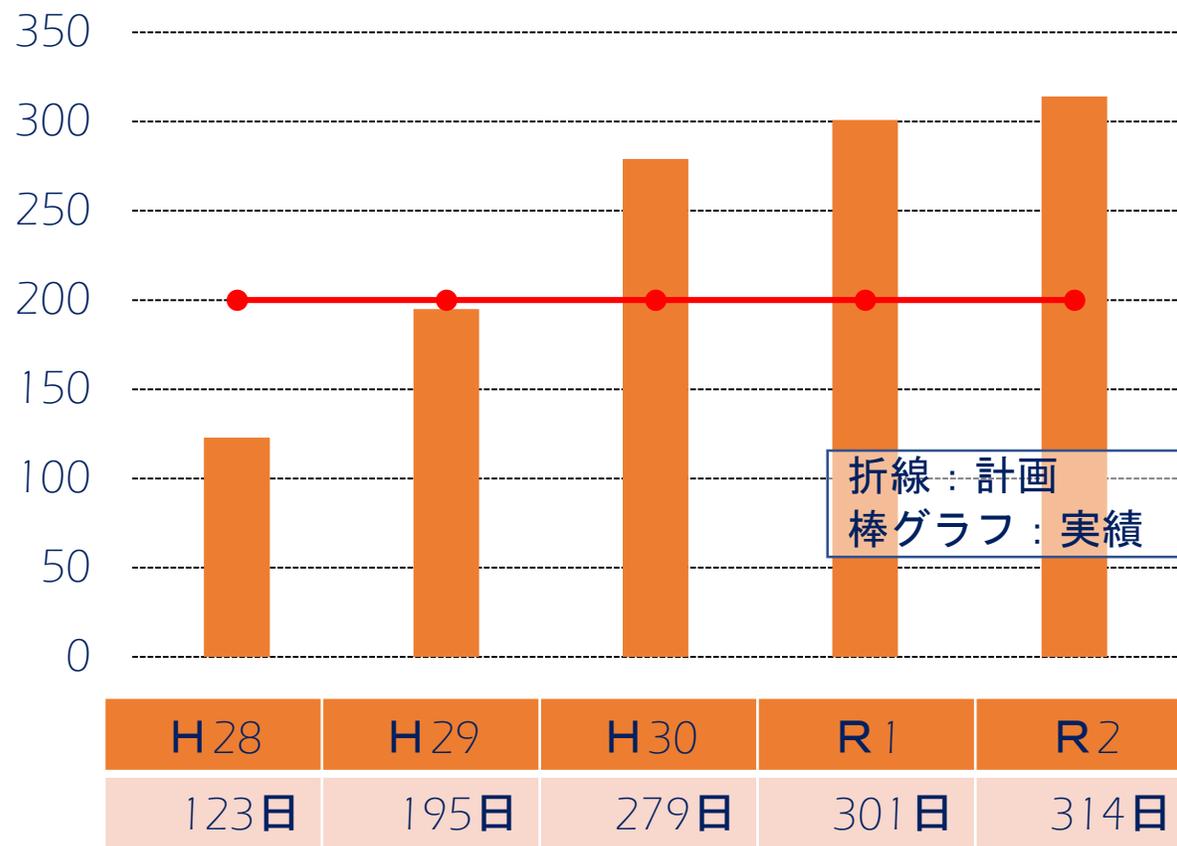
他病院への医師派遣

地域診療応援等による診療圏の拡大，紹介患者の受入れにより入院件数を確保する。

目標値 年200日以上 → H30からは目標値を超える派遣を実施。

自己評価

A



地域の人材育成

市民公開がん講座，函病健康教室，キッズセミナーの開催を通じ，地域の人材育成に努める。 → R2は新型コロナウイルス感染対策のため中止。それ以外は開催。

自己評価

A

区分	H28	H29	H30	R1	R2
市民公開がん講座	5回	5回	4回	5回	1回
函病健康教室	6回	6回	6回	6回	中止
キッズセミナー開催日	H29.2.11	H30.2.10	H31.2.11	R2.2.11	中止



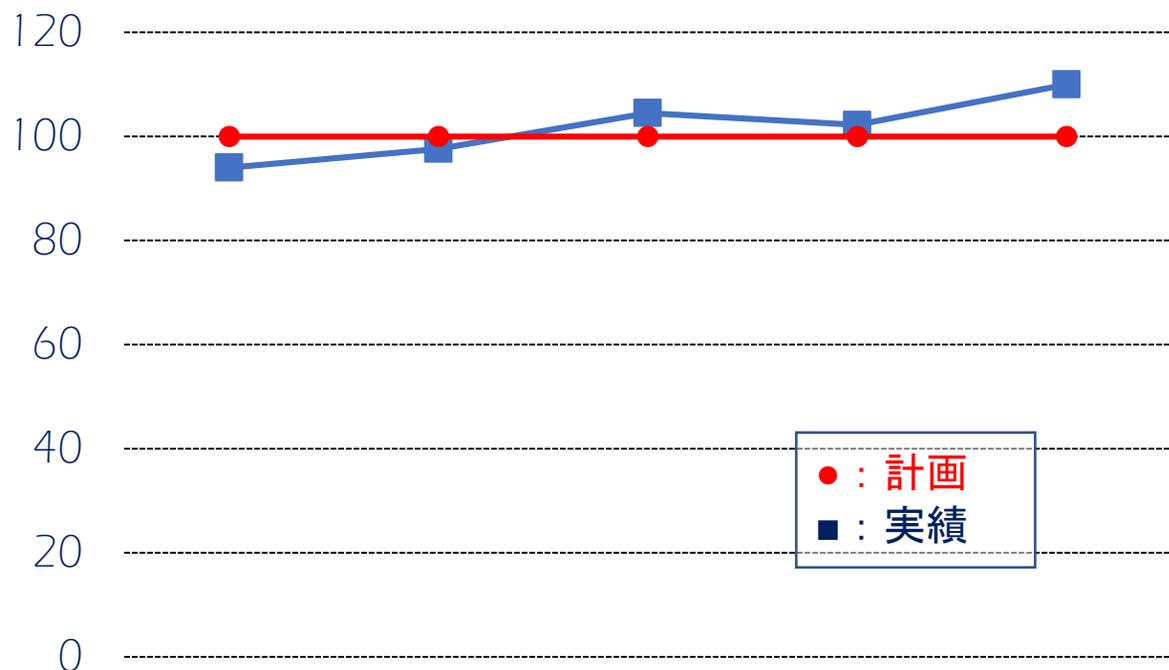
経常収支比率

経常収益（医業収益＋医業外収益）÷経常費用（医業費用＋医業外費用）×100

目標値100%以上 → H30以降については、目標値を達成。

自己評価

A



年度	H28	H29	H30	R1	R2
実績	94.0%	97.6%	104.5%	102.2%	110.0%

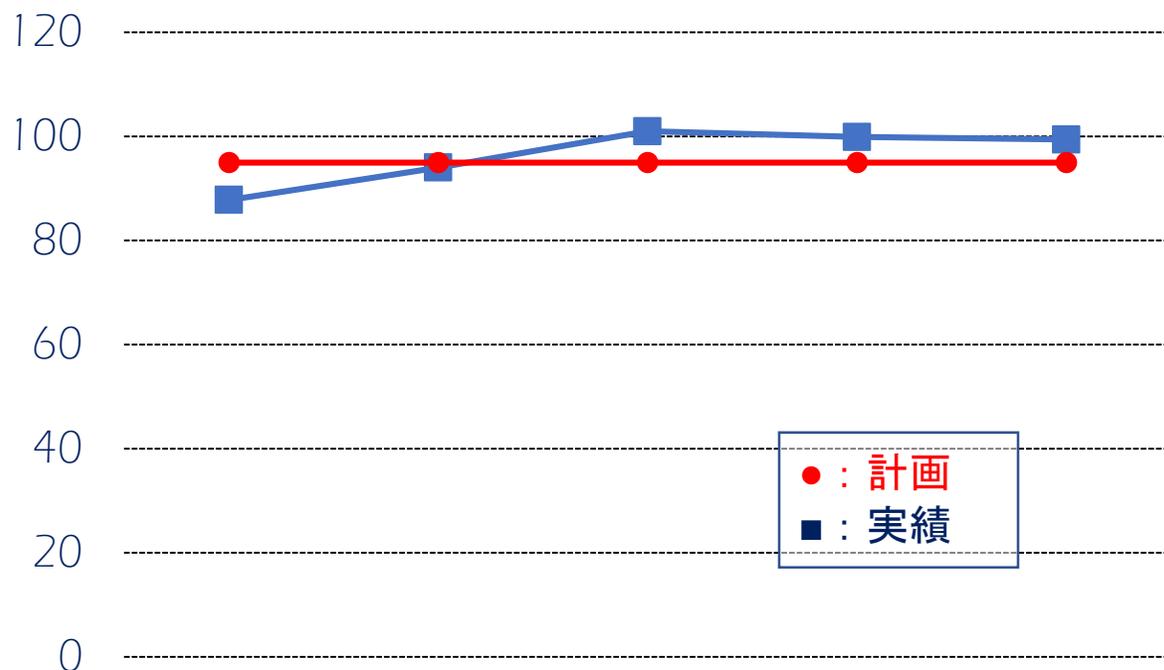
医業収支比率

医業収益÷医業費用×100

目標値95%以上 → H30以降については、目標値を達成。

自己評価

A



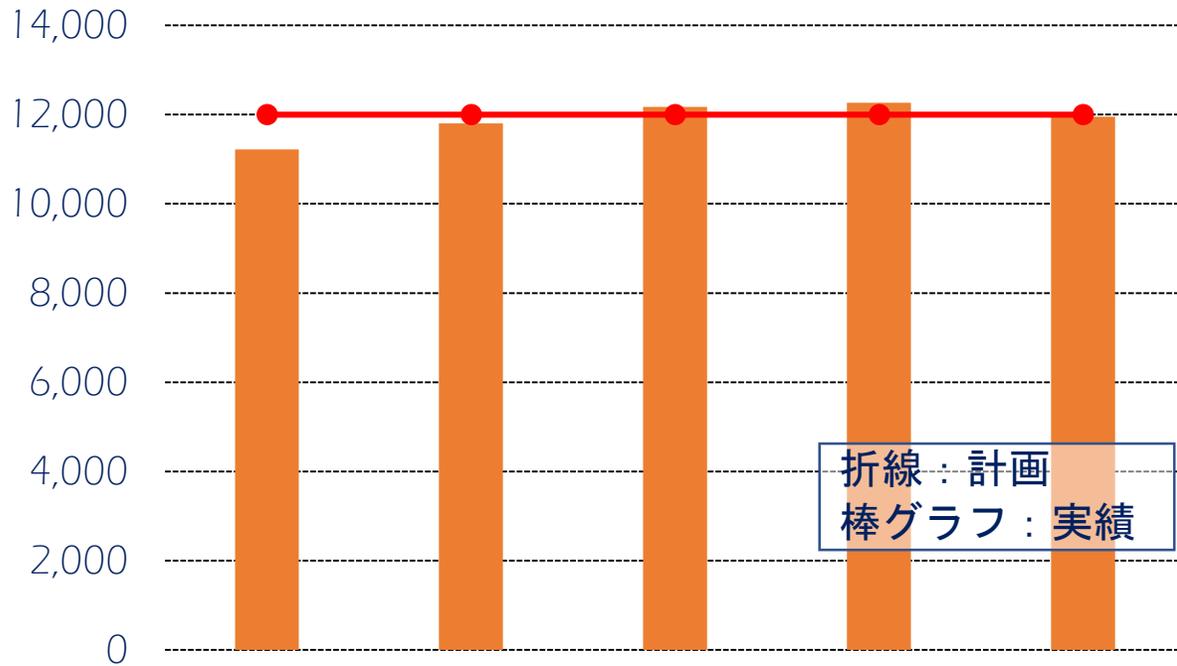
年度	H28	H29	H30	R1	R2
実績	87.8%	94.0%	101.0%	99.9%	99.4%

年間入院件数

目標値 年12,000件（月1,000件）を目標
→ H30, R1は目標値を達成したが, R2は
新型コロナウイルス感染症の影響もあり減
少した。

自己評価

A



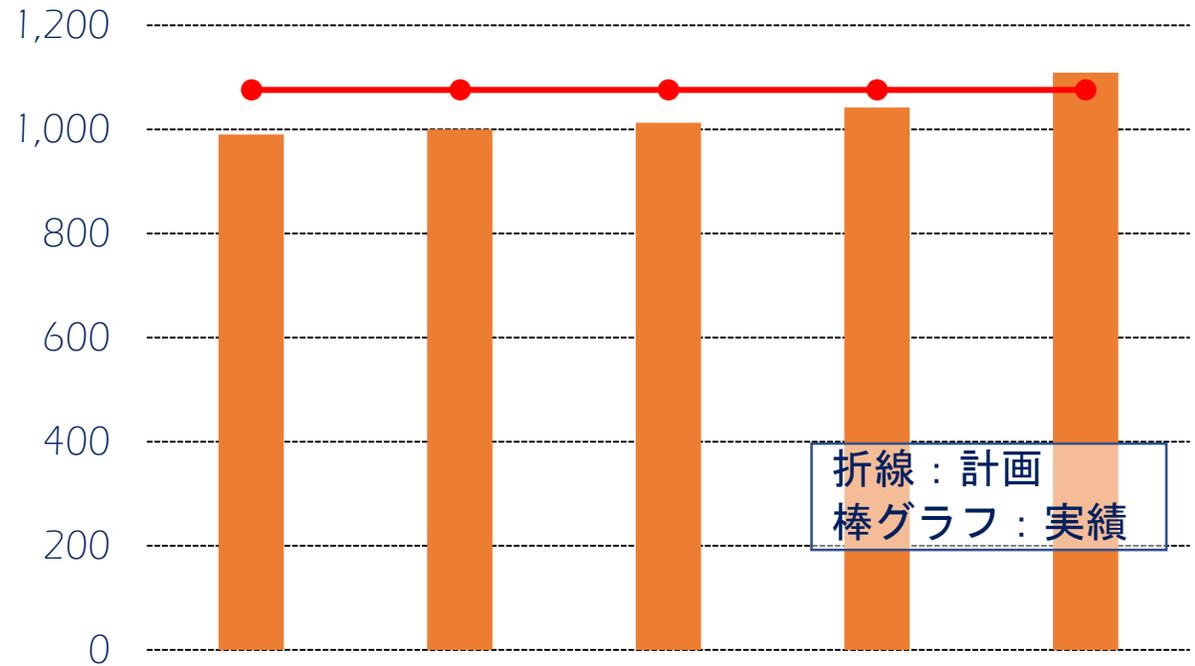
H28	H29	H30	R1	R2
11,220件	11,801件	12,171件	12,263件	11,952件

1件あたり入院収益

目標値 1,076千円以上 → 毎年度, 徐々に増
加し, 最終年次において目標に到達した。

自己評価

A



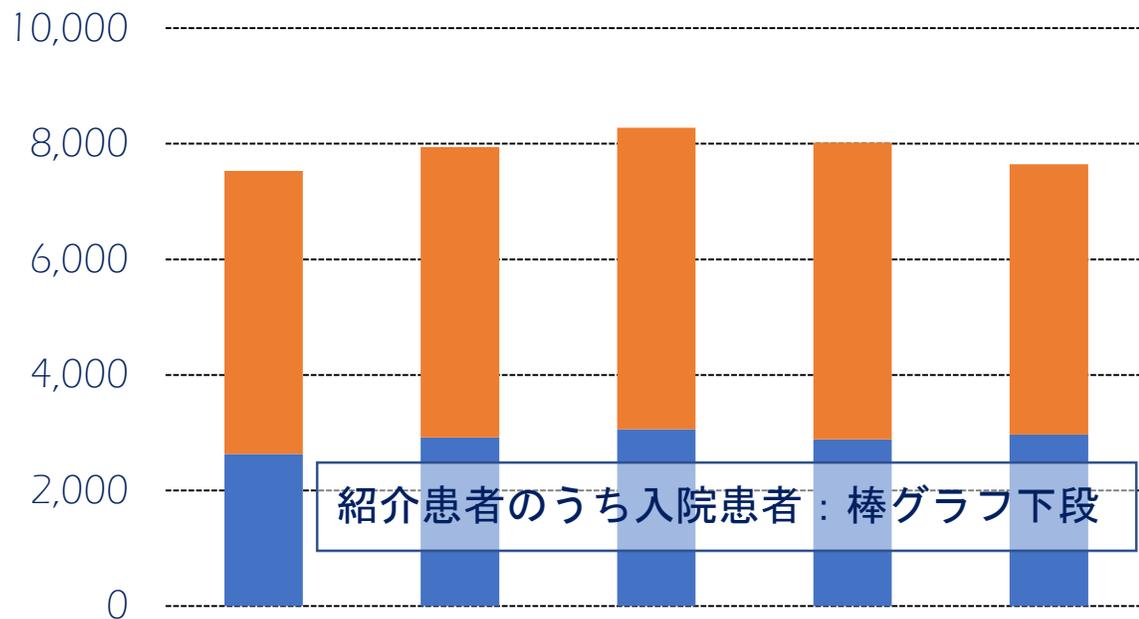
H28	H29	H30	R1	R2
990千円	1,000千円	1,013千円	1,042千円	1,109千円

紹介患者数

院長，副院長等によるクリニックへの訪問を実施。紹介患者を積極的に受入れし入院につなげる。→ R1までは増加傾向だったが，R2は訪問自粛の影響で減少した。

自己評価

A



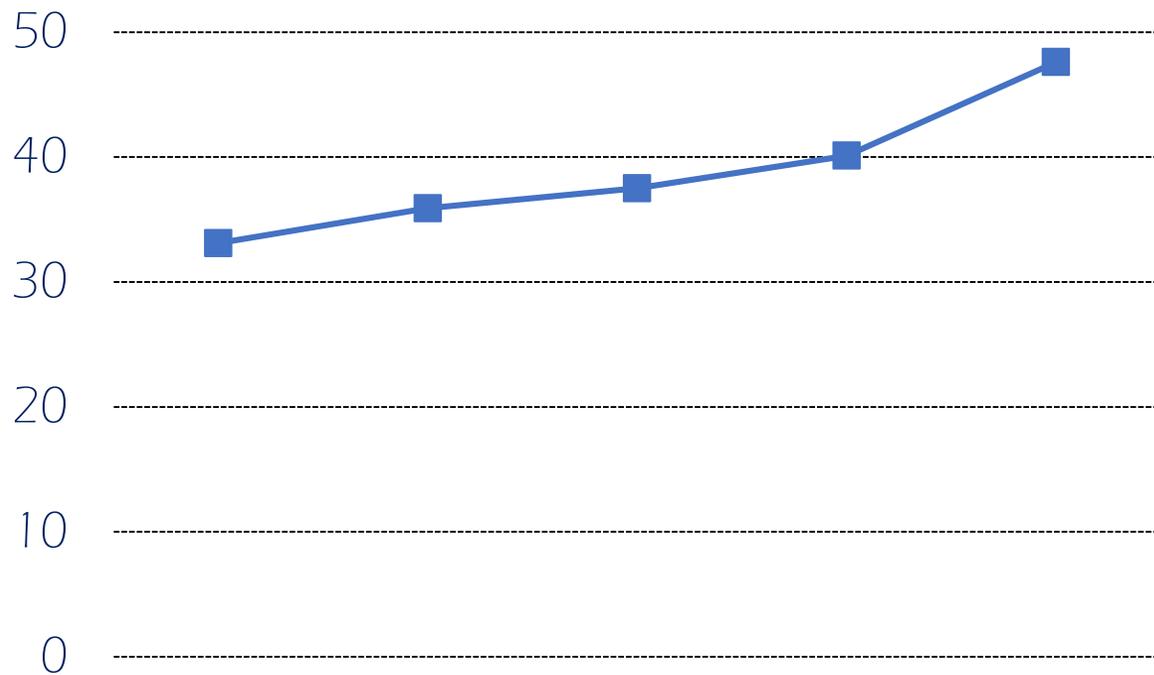
	H28	H29	H30	R1	R2
紹介患者	7,529	7,942	8,276	8,018	7,645
うち入院	2,632	2,918	3,061	2,885	2,963

クリニカルパス適用率

クリニカルパスの適用率を増やし，医療の安全や質の向上に務める。→ 毎年度，適用率は向上し，最終年次には50%に近い適用率となった。

自己評価

A



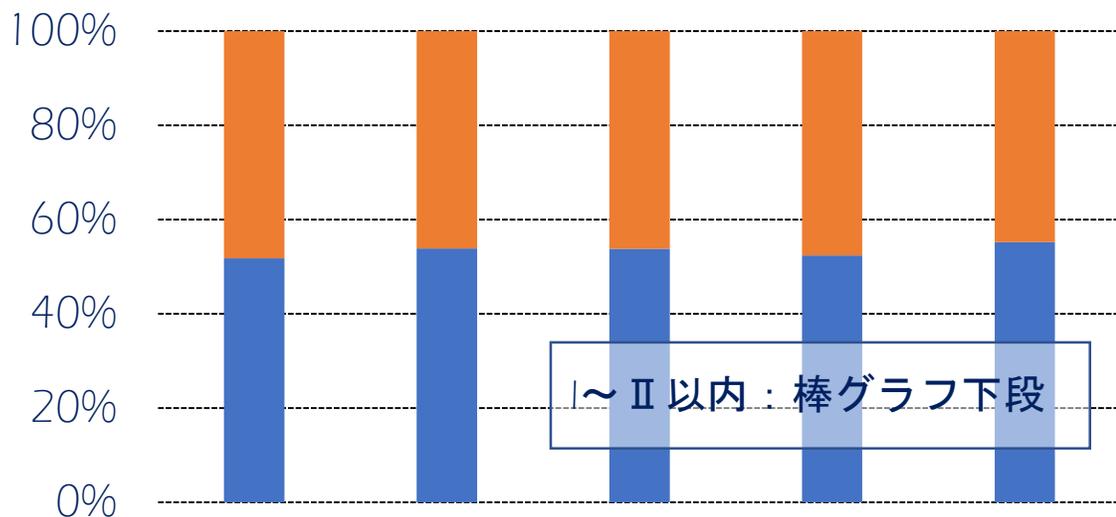
H28	H29	H30	R1	R2
33.1%	35.9%	37.5%	40.1%	47.6%

DPC入院期間・平均在院日数

DPC入院期間Ⅰ～Ⅱでの退院を増やし、平均在院日数の適正化を図る。→診療科ごとに取り組みを進め、R2は期間内退院55%を達成し、平均在院日数も短縮した。

自己評価

A



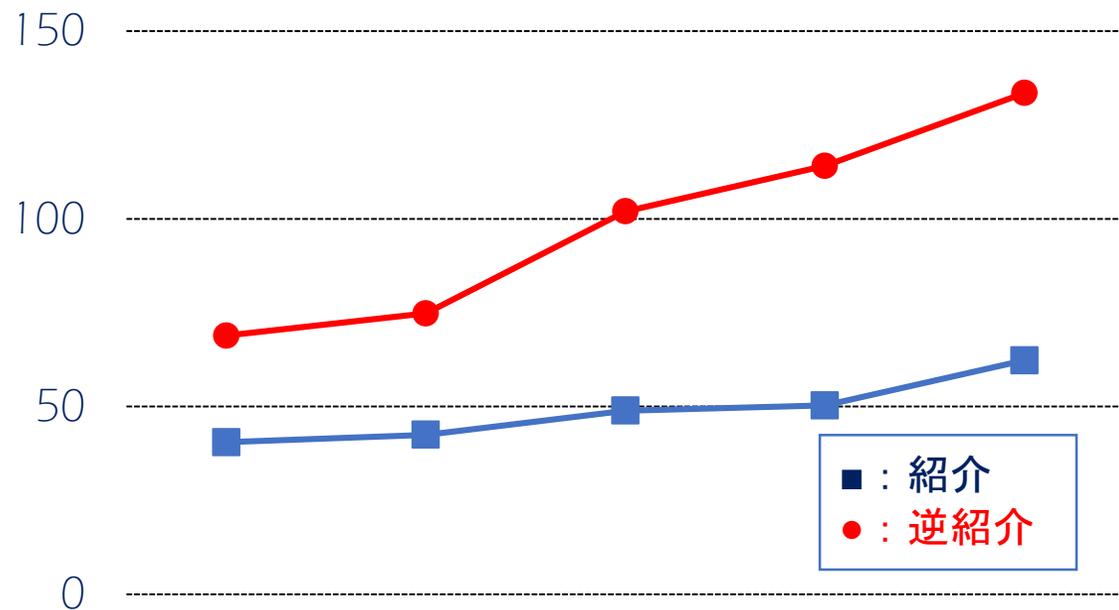
	H28	H29	H30	R1	R2
I～II以内	51.8%	53.9%	53.8%	52.4%	55.2%
期間II超	48.2%	46.1%	46.2%	47.6%	44.8%
平均在院日数	12.6日	12.6日	12.6日	12.9日	12.3日

紹介率・逆紹介率

救急患者を除く紹介率（目標50%）および逆紹介率（目標70%）の向上に取り組み、地域医療支援病院の指定を目指す。→H30から地域医療支援病院加算の算定開始。

自己評価

A



	H28	H29	H30	R1	R2
紹介率	40.5%	42.5%	48.9%	50.3%	62.3%
逆紹介率	68.9%	74.8%	102.0%	114.1%	133.5%

DPC特定病院群（DPCⅡ群）の指定

平成30年度の診療報酬改定時にⅡ群への復帰を目指す。→4つの実績要件のうち手術に関する1つだけ基準値を上回ることができず指定を受けることができなかった。

自己評価

C

精神病棟再開

精神科医を確保し、平成30年度からの精神病棟の再開を目指す。→精神科医を確保することができず、再開することはできていない。

自己評価

C

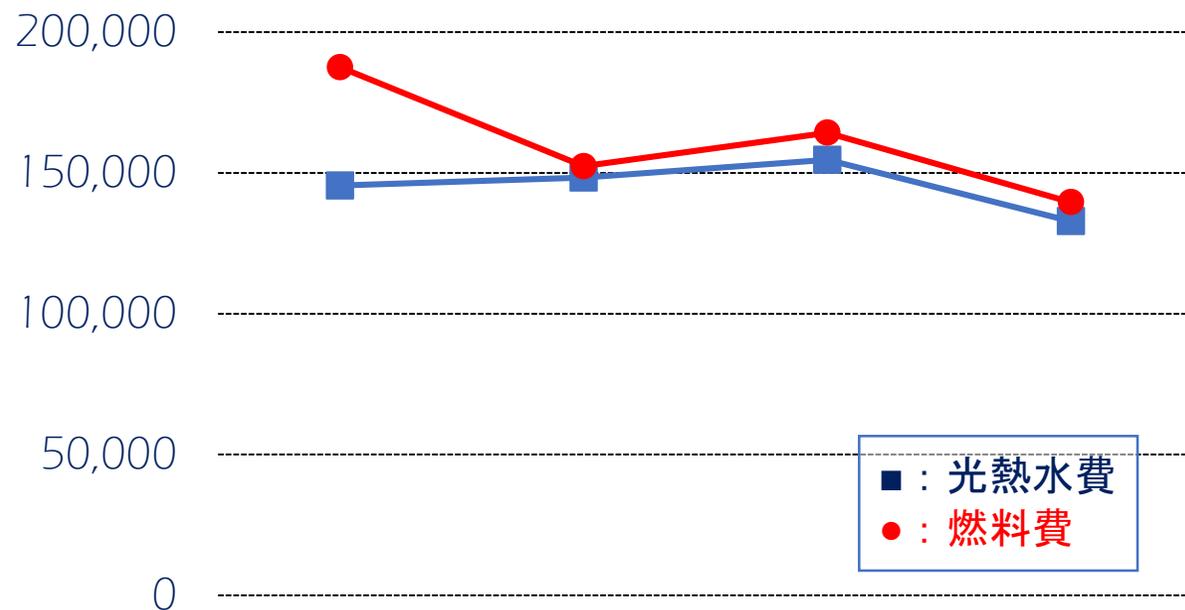
ESCO事業による設備改修と維持補修費の削減

省エネのための設備改修にかかる経費を光熱水費の削減分で賄う事業により設備の更新を図り維持補修費の削減を図る。

→H30.4月より稼働。

自己評価

A



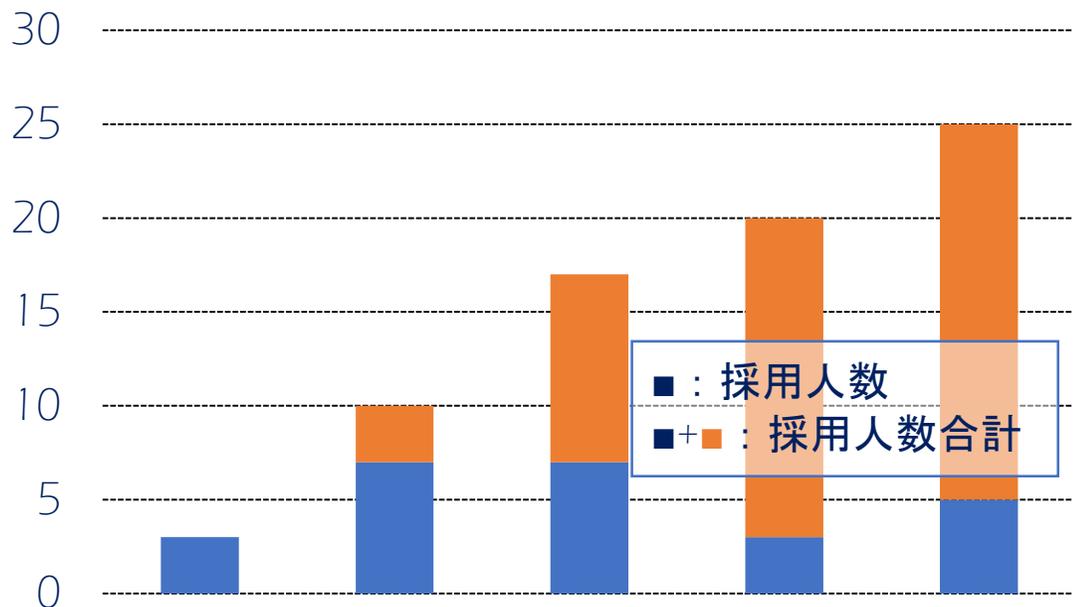
(千円)	H29	H30	R1	R2
光熱水費	145,502	148,314	154,656	132,810
燃料費	187,529	152,386	164,253	139,577

一般事務職員の病院独自採用

全ての事務職員のプロパー職員化を推進するとともに、民間病院並みの効率化を目指して職員の研鑽に励む。→事務職員のプロパー職員化を推進。

自己評価

A



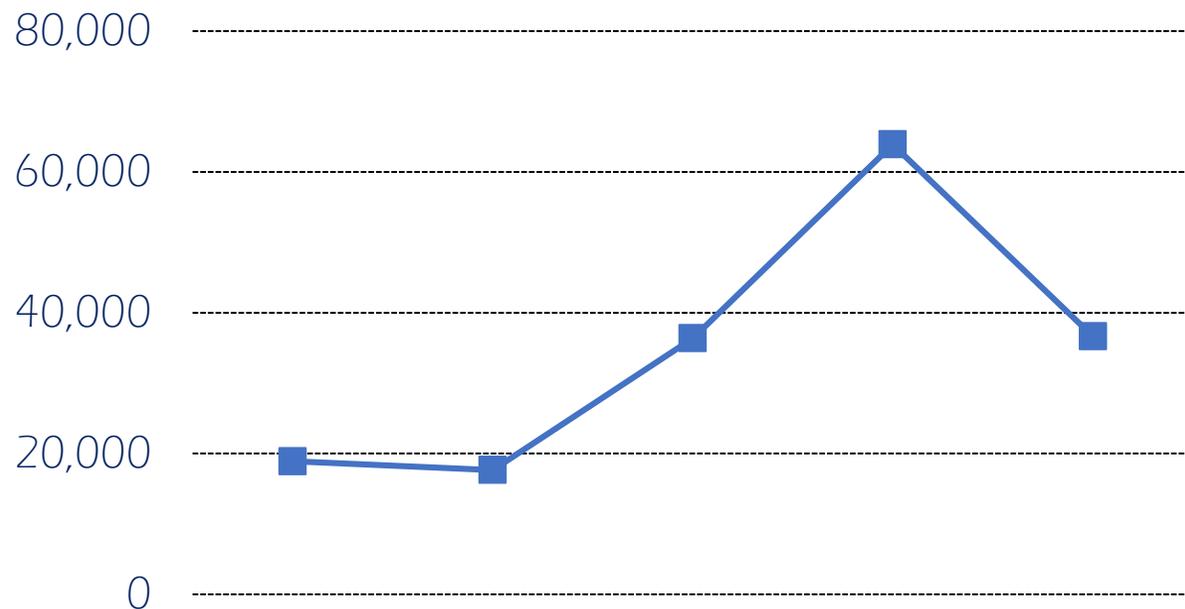
	H28	H29	H30	R1	R2
採用人数	3人	7人	7人	3人	5人

治験，製造販売後臨床試験への積極的な参加

治験等への参加は医療の進歩の一助となり、得られる収入は病院経営に有効であるため、積極的な参加に努める。→積極的に参加し、収入を確保した。

自己評価

A



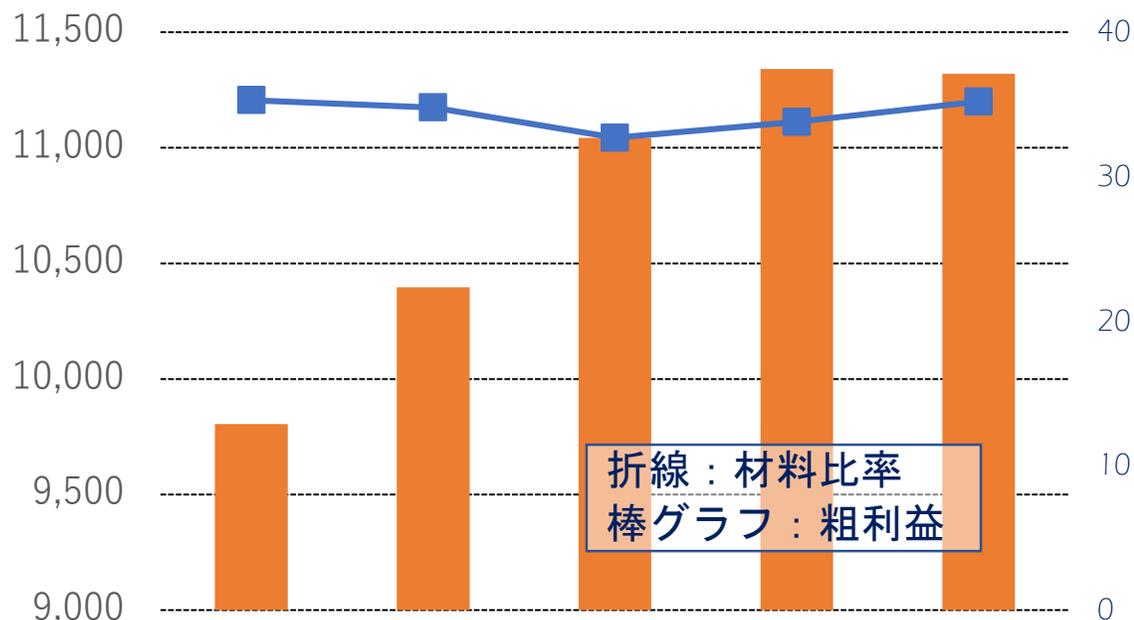
(千円)	H28	H29	H30	R1	R2
収入額	18,888	17,645	36,365	63,909	36,661

材料比率の見直し

材料比率の低減を図る。→ H30.4月から共同購入組織に加盟しコスト削減を実現。院内では共同購入品への切替について議論。

自己評価

A



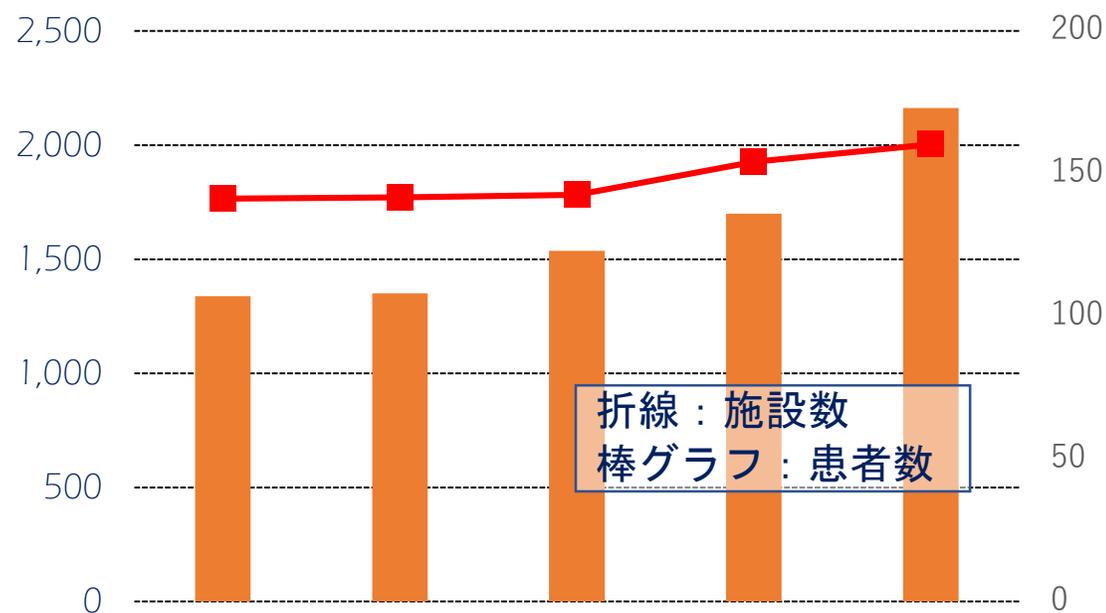
% , 百万円	H28	H29	H30	R1	R2
材料比率	35.3	34.8	32.7	33.8	35.2
粗利益	9,805	10,397	11,043	11,341	11,320

再編・ネットワーク化

道南地域医療ネットワーク (Medlka) の充実に努める。→ 参加施設数及び同意患者数の拡大に努めた。

自己評価

A



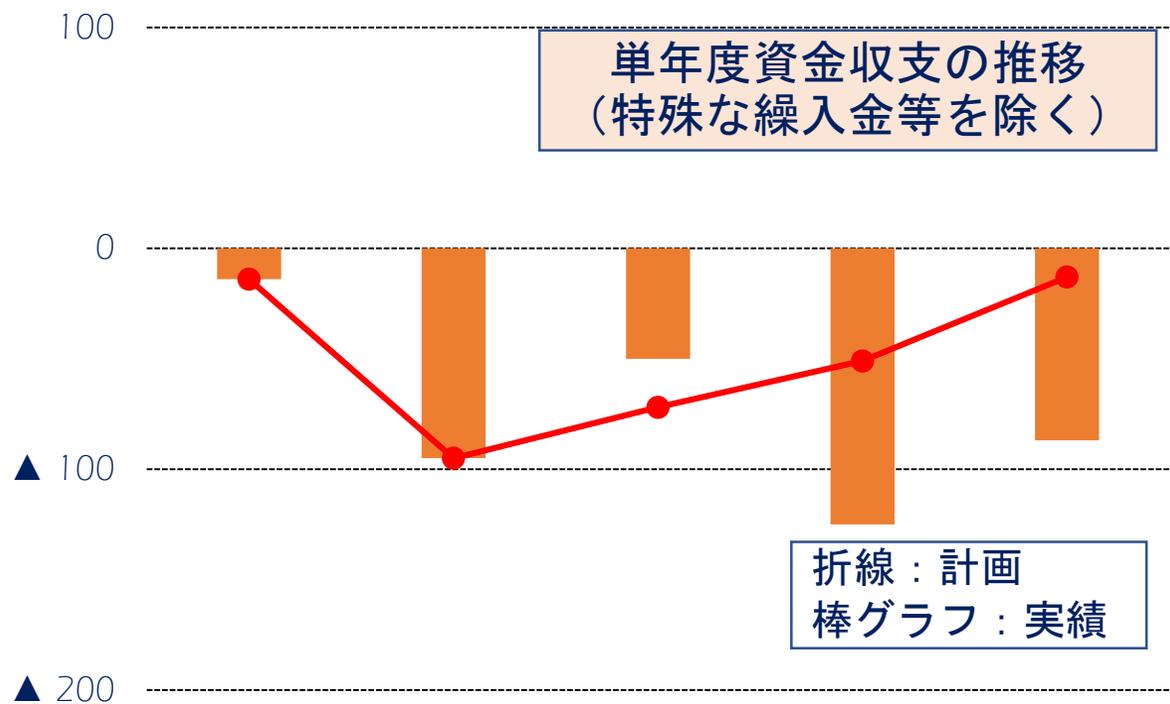
個所, 人	H28	H29	H30	R1	R2
施設数	107	108	123	136	173
患者数	1,766	1,771	1,783	1,927	2,004

3 恵山病院の取組みと自己評価について

恵山病院は「恵山・戸井・楸法華地域におけるプライマリケアおよび救急医療の提供，ならびに慢性期における入院医療を担う」ことを役割として掲げ，地域における唯一の病院として入院医療，救急医療を提供してきた。具体的な取り組み内容と評価は下記のとおりである。経営状況は，赤字で推移しており，安定的な運営に向けての検討が必要であることから，全体的な評価はBとした。

自己評価
(全体)
B

区 分	自己評価
入院患者のうち医療区分2,3の割合	A
救急患者受入人数	B
入院透析患者数	A
外来透析患者数	A
地域ケア会議の開催	A



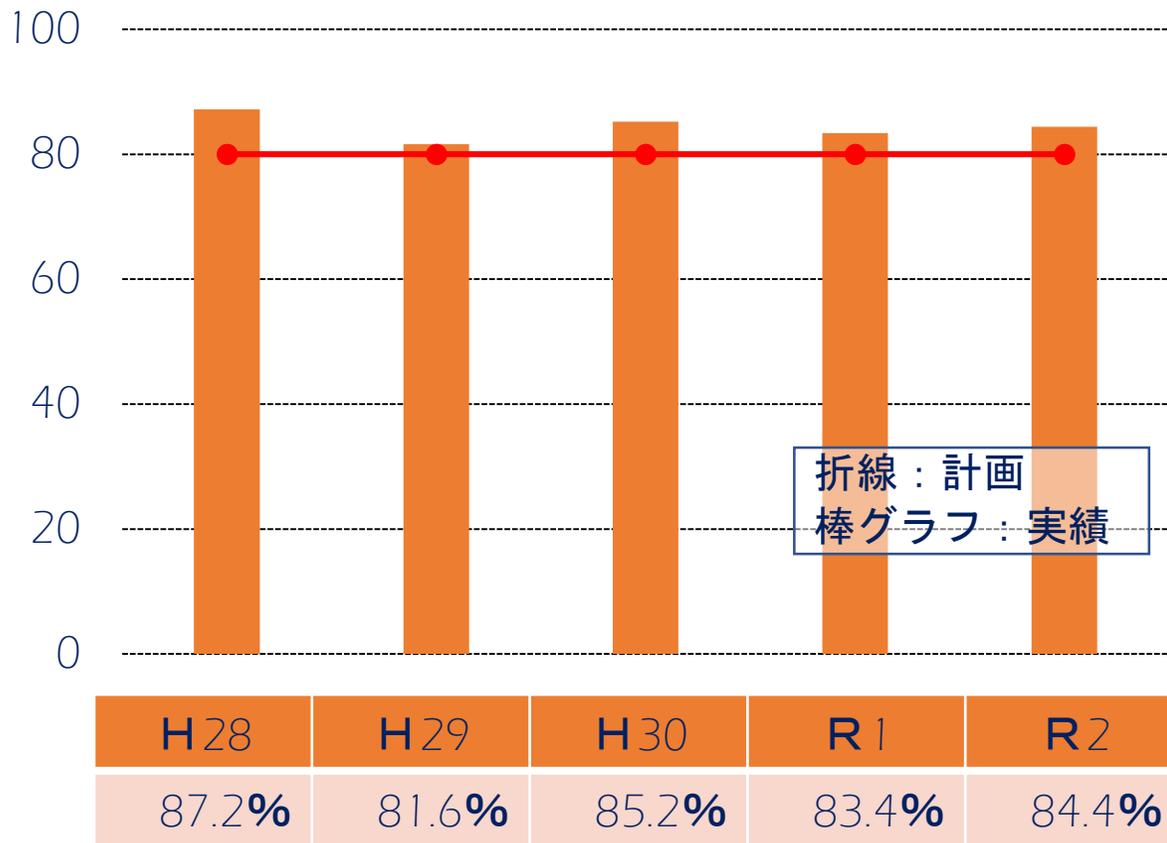
(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	▲14	▲95	▲72	▲51	▲13
実績	▲14	▲95	▲50	▲125	▲87

入院患者のうち医療区分2,3の割合

地域における唯一の病院として、特に医療の必要度が高い方への医療を提供する。**目標値 医療区分2,3の割合を80%以上で維持** → 毎年度目標を達成。

自己評価

A

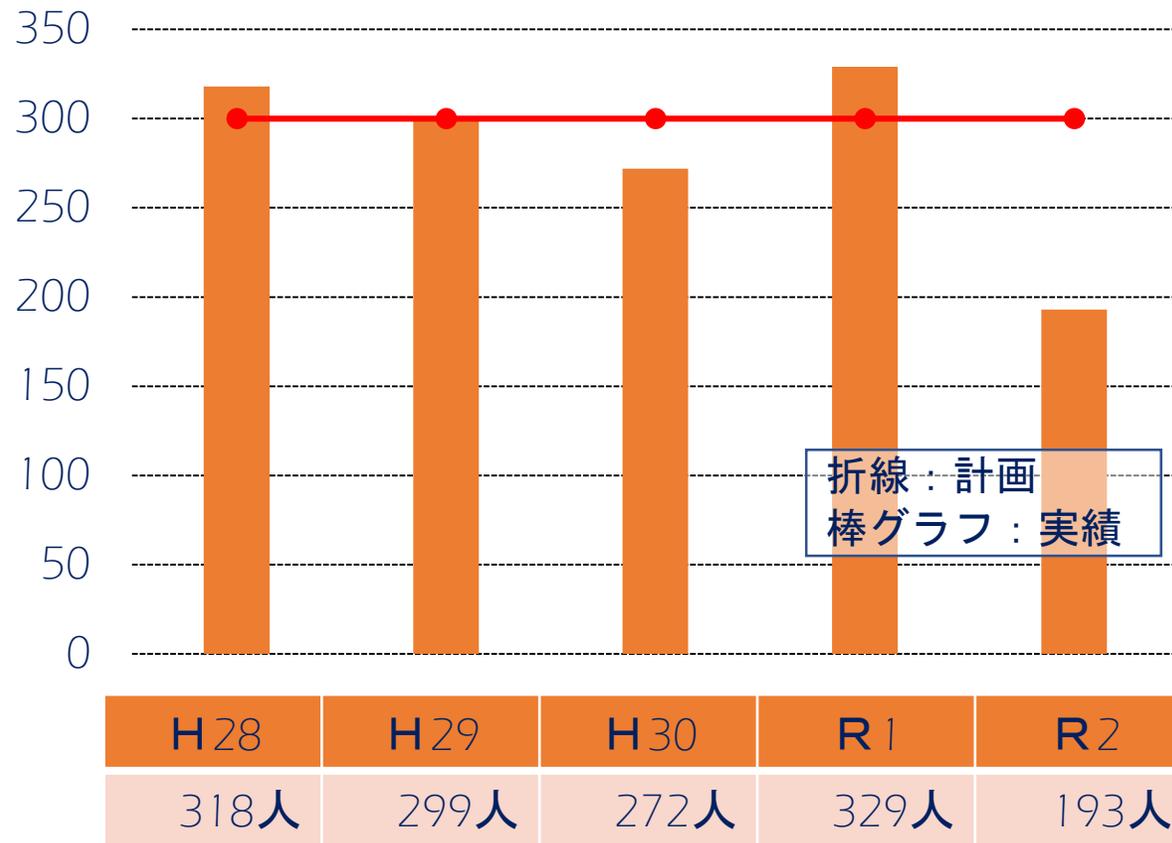


救急患者受入人数

地域における唯一の病院として、救急医療を提供する。**目標値 年300人以上を維持**
→ H30, R2の2か年は目標を達成することができなかった。

自己評価

B

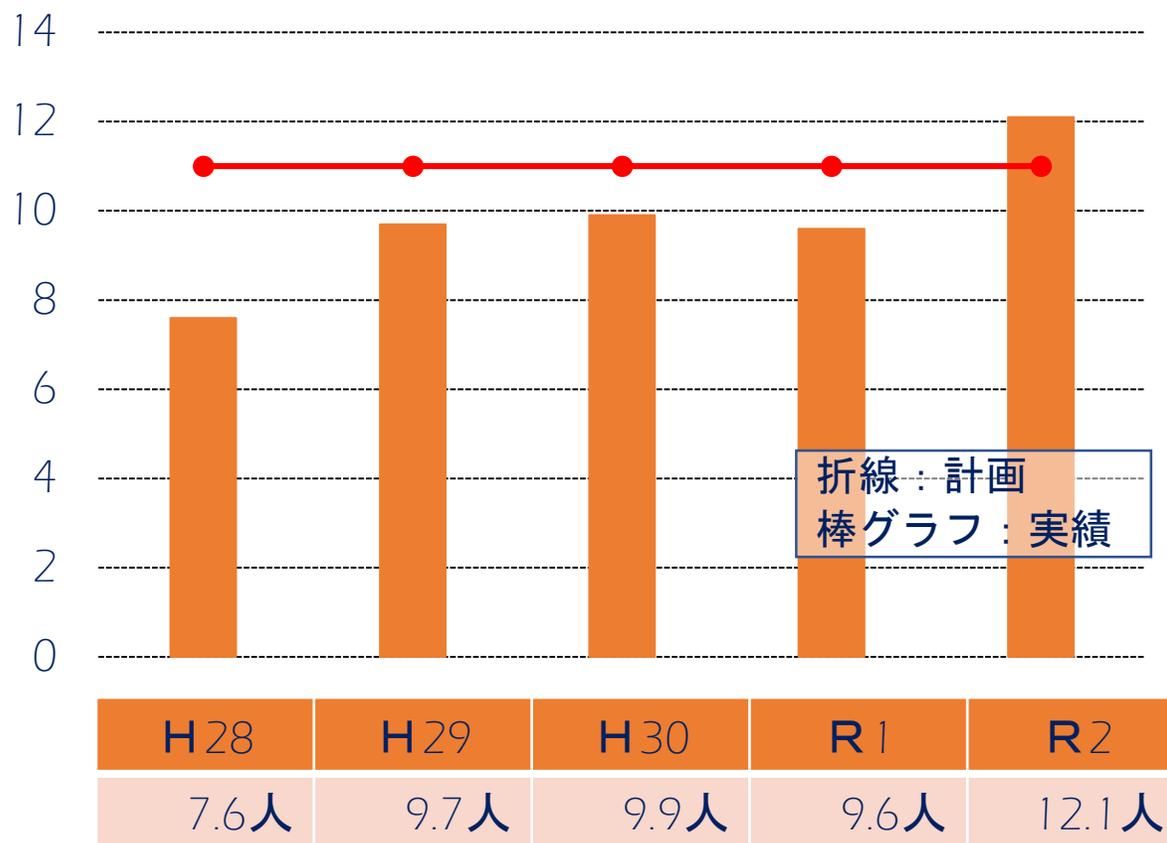


入院透析患者数

人工透析に代表される慢性期医療を提供する。**目標値 11人** → R1に透析室をリニューアルし、透析ベッドを8床から12床に増床。R2に目標を達成。

自己評価

A

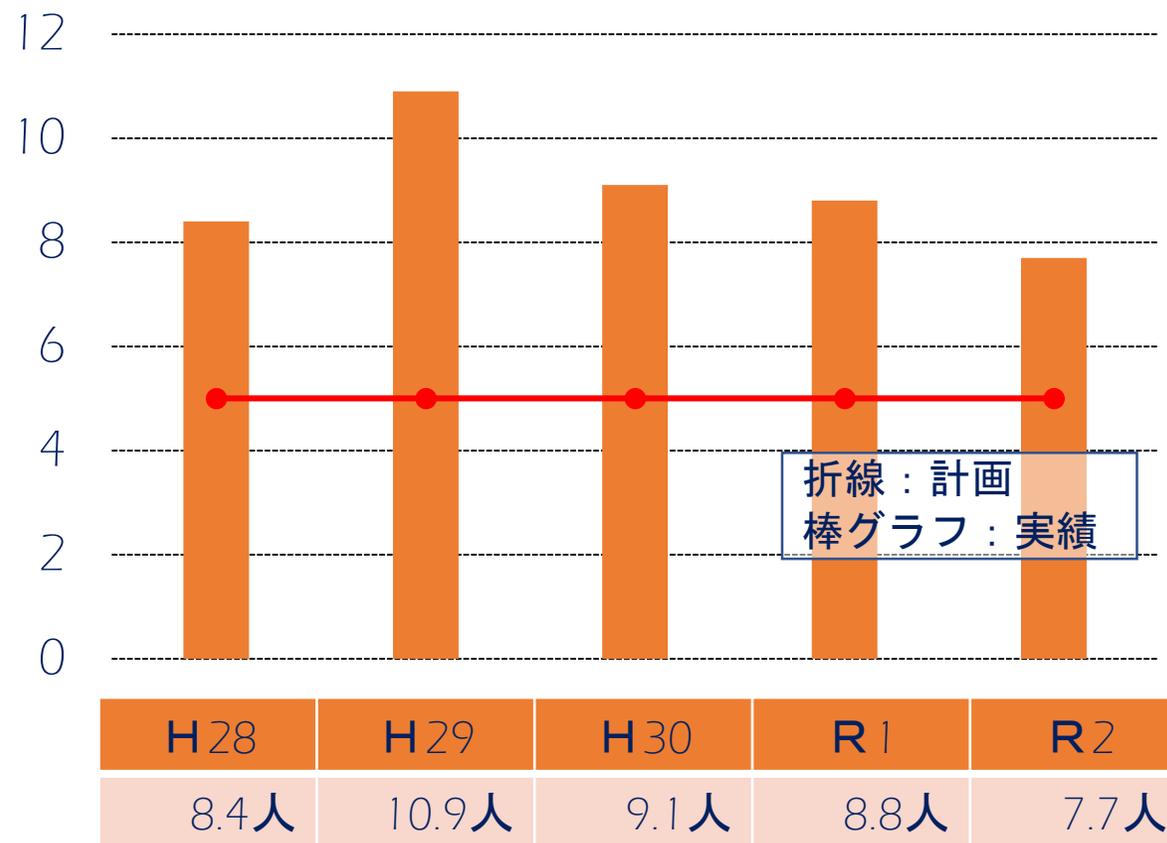


外来透析患者数

人工透析に代表される慢性期医療を提供する。**目標値 5人** → 毎年度目標値を確保。

自己評価

A



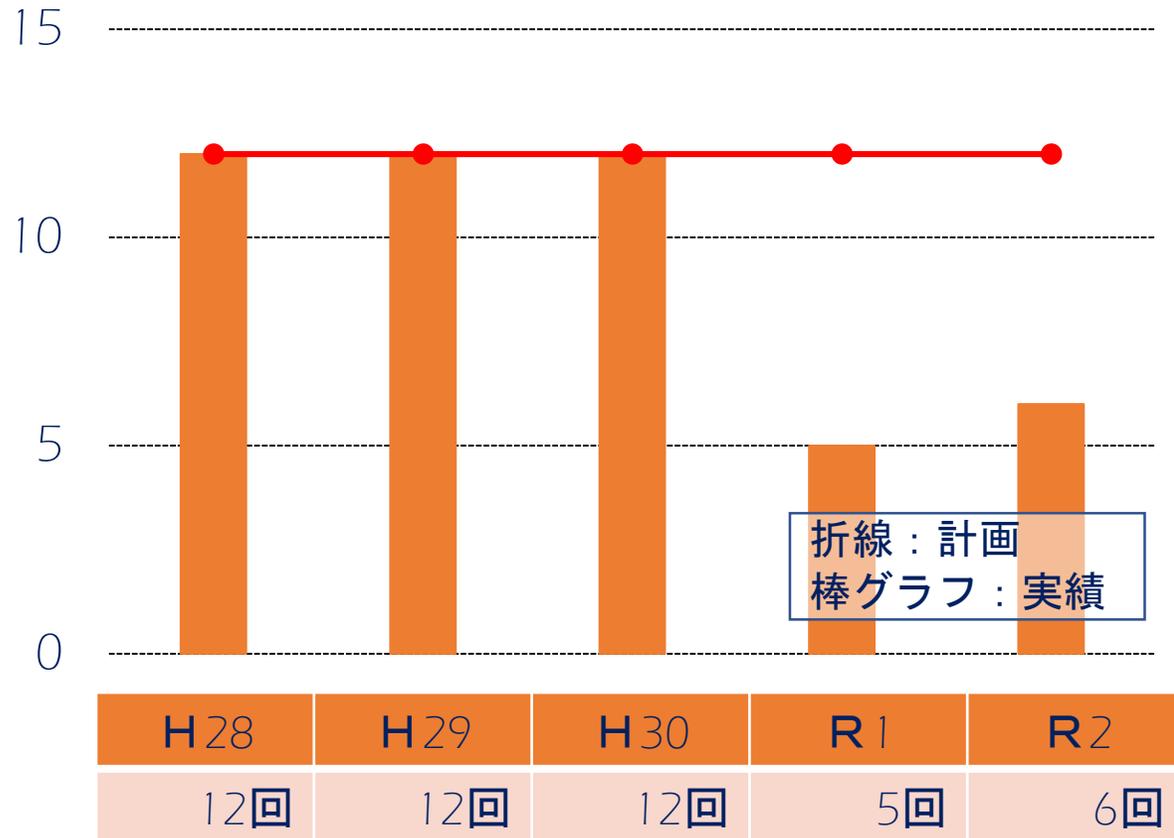
地域ケア会議の開催

地域の医療，介護関係者等との会議を定期的に開催し，医療と介護の連携を進める。

目標値 年12回開催を維持 → R1以降は，隔月開催に変更のため減少した。

自己評価

A



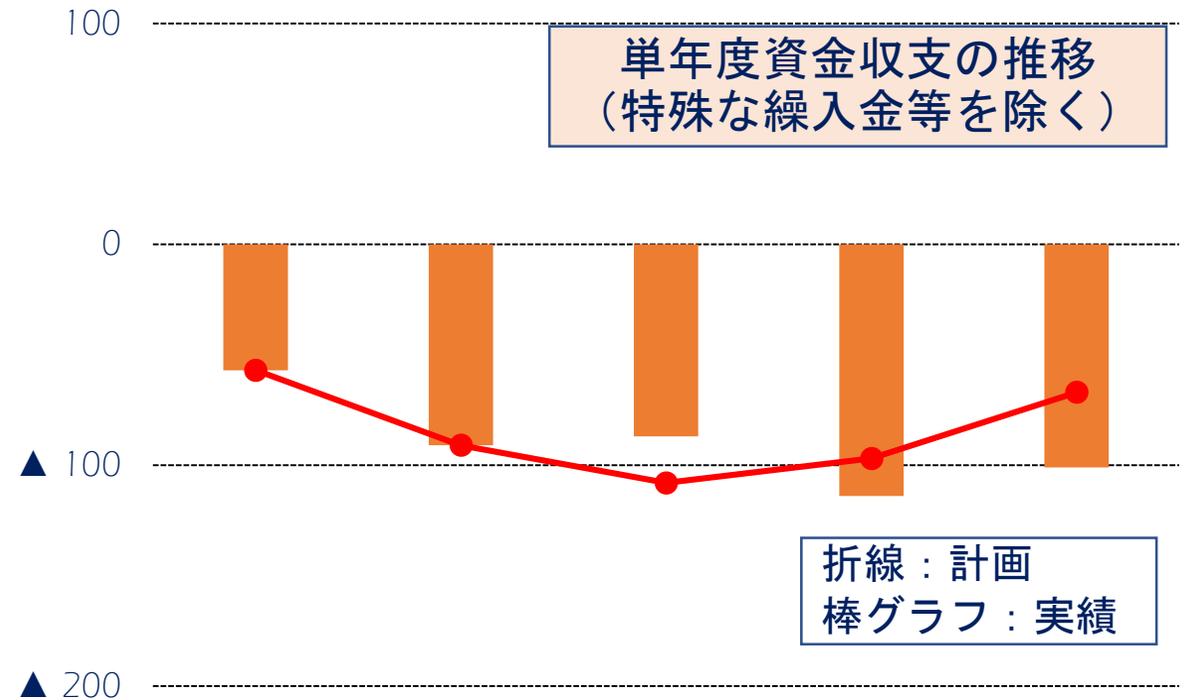
4 南茅部病院の取組みと自己評価について

南茅部病院は「南茅部地域におけるプライマリケアおよび救急医療の提供，ならびに急性期および慢性期における入院医療を担う」ことを役割として掲げ，地域における唯一の病院として入院医療，救急医療を提供してきた。具体的な取組み内容と評価は下記のとおりである。経営状況は，赤字で推移しており，安定的な運営に向けての検討が必要であることから，全体的な評価はBとした。

自己評価
(全体)

B

区 分	自己評価
救急患者受入人数	B
地域ケア会議の開催	A
地域との懇談会等の開催	C



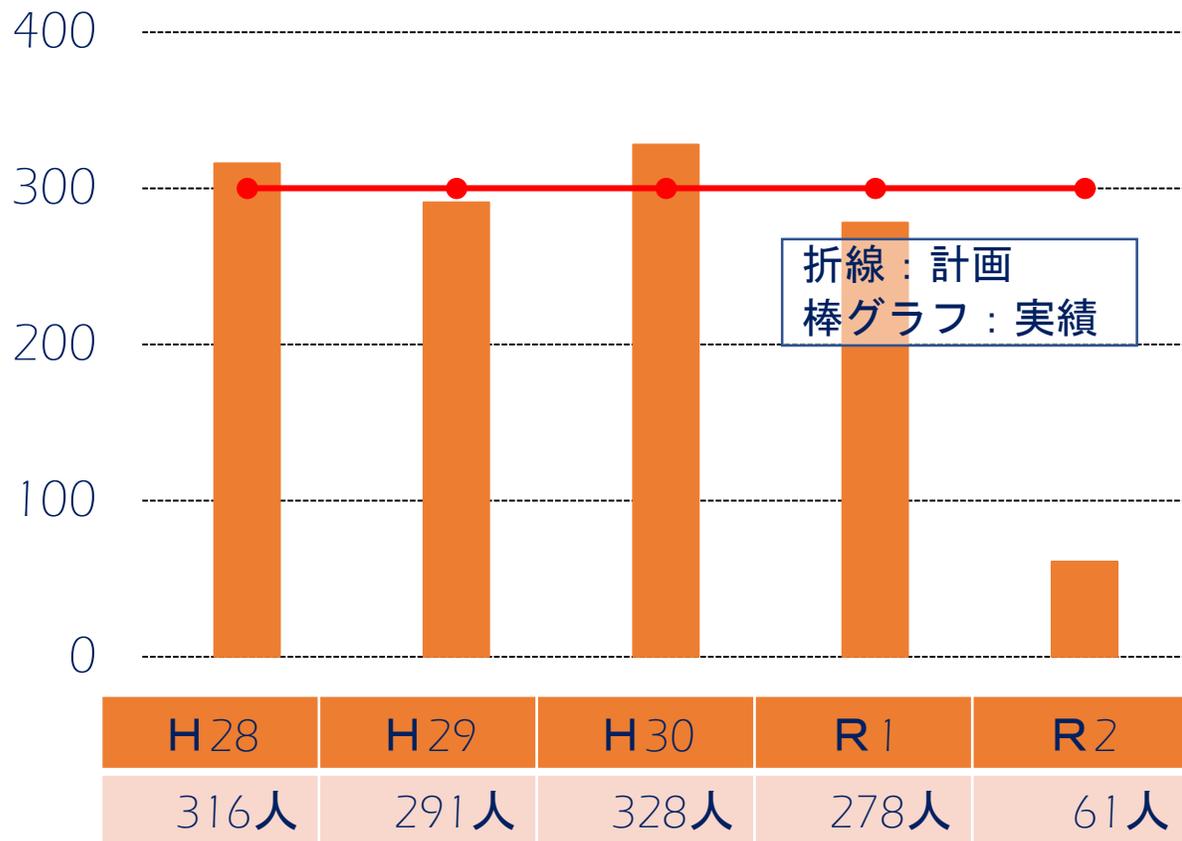
(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	▲57	▲91	▲108	▲97	▲67
実績	▲57	▲91	▲87	▲114	▲101

救急患者受入人数

地域における唯一の病院として、救急医療を提供する。**目標値 年300人以上を維持**
→ H29, R1, R2の3か年は目標を達成することができなかった。

自己評価

B

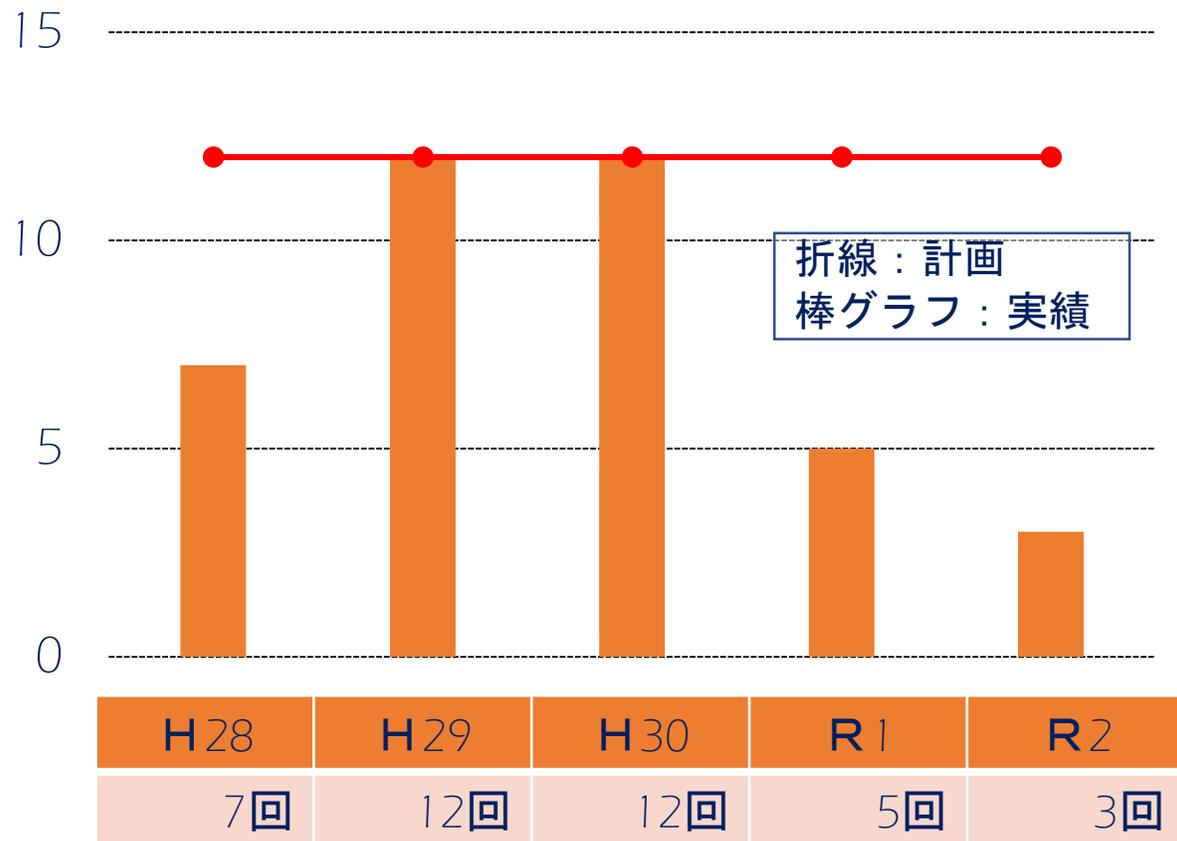


地域ケア会議の開催

地域の医療、介護関係者等との会議を定期的に開催し、医療と介護の連携を進める。**目標値 年12回開催を維持** → H28から参加R1以降は、隔月開催に変更のため減少した。

自己評価

A

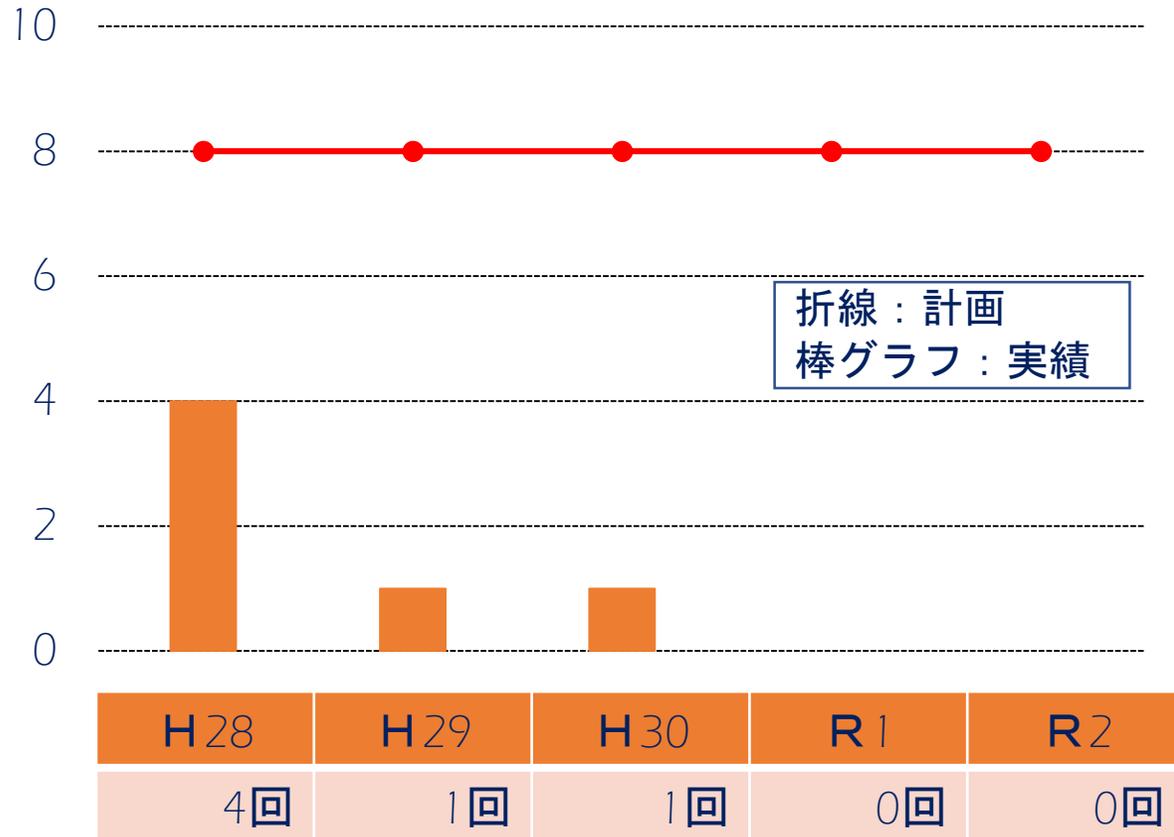


地域との懇談会等の開催

地域住民等の信頼を持続的なものとするため、病院運営改善のための懇談会等を開催する。**目標値 年8回開催** → R1以降は開催することができなかった。

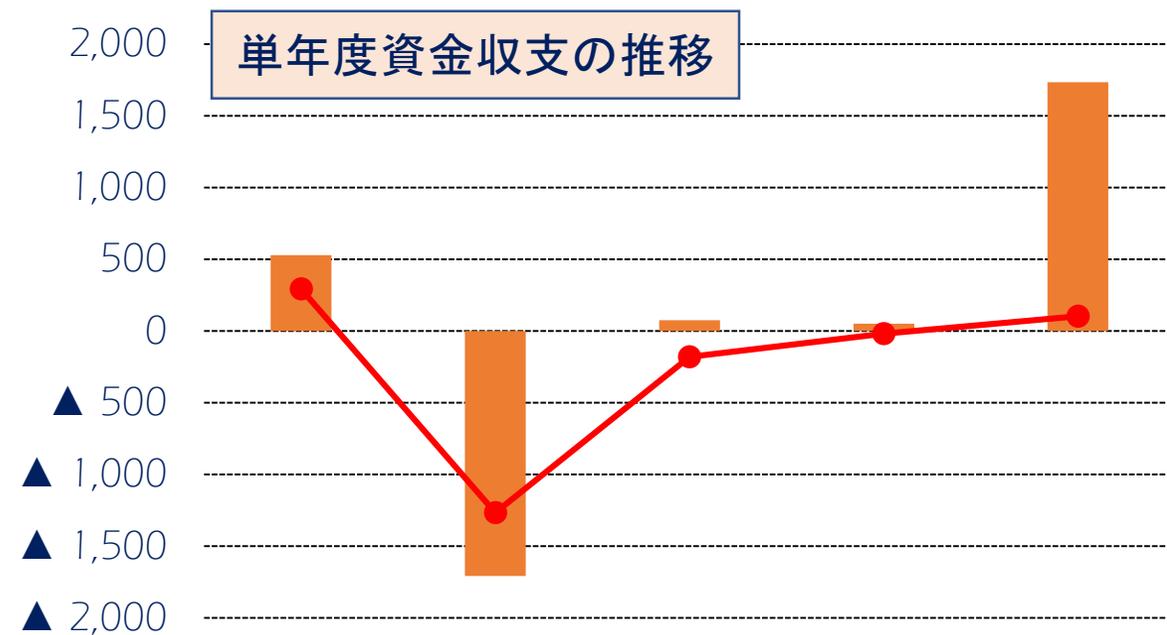
自己評価

C

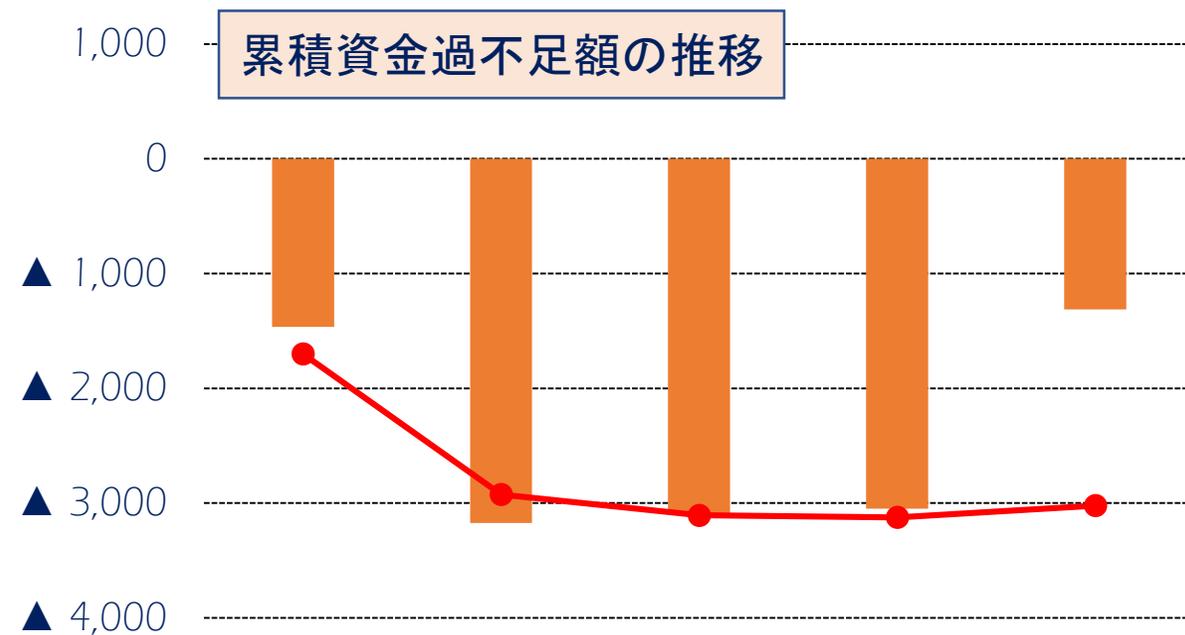


5 経営に関する全体的な自己評価（3病院）

プラン目標：各種対策を講じることによりR2単年度資金ベースで黒字 → H30より黒字化。R2累積資金過不足額は▲1,313百万円に圧縮。(R2実績はコロナ関連の特殊な補助1,680百万円含む。) 函館病院は、改革プランに掲げた取り組みを進め、H30より3か年連続で単年度黒字を実現。恵山病院、南茅部病院は、収支不足分を市から支援を受け、地域における唯一の病院として役割を果たした。



(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	293	▲1,226	▲180	▲19	103
実績	528	▲1,708	74	50	1,735



(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	▲1,700	▲2,926	▲3,106	▲3,125	▲3,022
実績	▲1,465	▲3,173	▲3,099	▲3,049	▲1,313

6 函館市病院事業経営改革評価委員会による総合的な評価

- 「函館市病院事業経営改革評価委員会」は、医師不足や診療報酬マイナス改定等により、累積の資金不足が最大約32億円となるという非常に厳しい状況の下、平成28年度に策定された「(新)函館市病院事業改革プラン」による改善状況の点検等を目的とし、これまで議論を重ねてきました。
- 委員会として、市病院局に対し、材料比率の見直しなど経営改善のための提言を行ってきたところですが、函館病院では平成30年度から、3年連続で収支均衡を達成するなどの結果を出しました。
- 恵山病院、南茅部病院では、地域唯一の病院として、住民に対し継続して医療の提供を行っていますが、持続的な運営に向けてさらなる検討の余地があります。
- 3病院の中でも、函館病院の経営は上向きになっており、これらの状況を踏まえ、当委員会におけるプランに関する総合的な評価は「A(仮)」とします。
- なお、今後についても、引き続き経営改善を推進するとともに、道南圏の地域医療の充実に努めることを希望します。

函館市病院事業経営改革評価委員会 委員長 鎌田 直善

総合評価
(仮)

A